

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙２）

団体名	自主学童保育ささのはクラブ
-----	---------------

取組の名称	地域に根差した学童保育から共助の地域コミュニティを作り子育て支援活動を広げる
実施場所	川崎市宮前区西野川 3-17-41
対象地域	川崎市宮前区・高津区野川地域
対象地域の特色・課題	野川地域は、神奈川の昔話に残っている歴史のある地域で、畑作中心の農家が代々続いてきた地域である。そこに約 50 年前住宅地ができ、公営の団地やマンションが次々でき新住民が急増した。さらに、最近 20 年位で、宅地開発が進み畑や山林が開発され、住宅が急増している。 第一世代の新住民も世代交代が進み、第二世代の新住民は若い世代で核家族が大多数で、住宅購入の資金などの必要から共働き家庭がほとんどである。そのため、保育園や学齢期の学童保育の需要が多い地域である。 地域のこどもが置かれている状況は経済的な課題の他、野外でみんなで遊ぶ機会が減った事によるこども同士の関わりの希薄化が顕著であり、一方大人も、日中は職場に行って近隣の人と関わる機会がなく孤立化も進んでいる。地域の大人が力と知恵を出し合い、こども達みんなに関わる活動をすることで、こども達が大人を信頼し、大人になる事に希望が持てるようになる活動が必要である。こどもと大人が密接に関われる、自主学童保育運営活動を、地域の中で生かしていきたいと考えている。
取組の趣旨・目的	I. 地域に根差した学童保育として、次の目的で学童保育事業を運営する。 1 こどもが安全・安心に過ごせる居場所づくりを行い、働く保護者が安心して就労できる環境を作ること。 次の３点を基本として活動を行う。 (1) いつでも仲間のいる、安心できる環境 継続した在籍・来室を前提とし、安定した生活環境を確保する。

	(2) 小学校の全期間を通じた保育活動 小学校の全期間を通じた在籍を前提として保育計画を策定・実施する。 (3) 卒室後の継続的なフォローアップ 卒室・小学校卒業以降も、居場所として活用できる。 2 課題を抱えるこどもに対する支援を行うこと 課題を抱えるこどもたちを支援するため、次のような活動を実施する。 (1) 適応・不登校等の問題への対応 学校とは違う形で、こどもと関われる居場所としての役割を確保する。 (2) 学習につまずいたこどもへの支援 日常生活の中で、学習に興味や意欲が持てるような取り組みを実施する。 Ⅱ. 地域に根付いた学童保育から、共助の地域コミュニティ作りへと発展させるため、次の事業を行う。 1. 地域と連携したこどもの居場所づくりを行うこと 地域と連携し、困難や課題のあるこどもへの支援を積極的に行い、地域のこども同士が交流を深め、地域に対して愛着を持つこどもを育成するために次のような活動を実施する。 (1) 孤立しがちで困難を抱える親子を対象にこども食堂を実施し、食事の提供を通して繋がりを作る。 (2) フードドライブ活動への参加 地域の必要な世帯へ食料品などを届ける活動をしているフードバンク活動に参加し、定期的に保護者及び近隣の子育てグループに声をかけて、食品等を集め寄贈する。 (3) こども文化センターの活動への参画 地域の子育ての拠点である「野川こども文化センター」の運営協議会に参加し地域の子育て活動に協力する。 (4) 地域との関わりの強化 青少年指導員及び地域の小中学校のPTAの関係者に、事業運営への参画を依頼し、本事業の運営委員会のオブザーバーとして助言をいただく体制を構築する。 (5) 地域のこどもたちの日常活動での交流 地域での活動が主となることから、地域のこどもたちに対してもオープンな活動を行う。
--	---

	(6) 地域におけるこどもの文化活動の発信 長年積み重ねてきた学童保育での文化活動、関わりを持ってきた地域人材、多様な保護者の協力を得て、こどもたちが興味を広げられるような文化活動を行う。 (7) 世代間交流の推進 地域の幼児からお年寄りまで広い世代との交流を行う。 (8) 地域人材の活躍・育成の場の提供 学習支援のための勉強会にボランティアとして退職教員に来てもらったり、卒室生に対しても日常活動や各種行事に参加してもらい、在室生や保護者との関わり通じて、地域の社会活動への窓口の役割も果たす。
実施内容・実施スケジュール	I. 地域に根付いた学童保育づくり 1. こどもが安全安心に過ごせる居場所づくり 安全安心なこどもの居場所を維持し、保護者の就労支援をするためこども同士の関わり合いの持てる居場所づくりを年間を通して行った。 (1) 継続した在籍・来室 途中退室 1 名（保護者都合） (2) 小学校の全期間を通じた在籍 1 年 9 名、2 年 6 名、3 年 12 名、4 年 8 名、5 年 5 名、6 年 6 名在籍 (3) 卒業後のフォローアップ 怪我をした、鍵を忘れたなどだけでなく、学校・家庭・地域生活などで人間関係のつまずきなどの困難な状況があるときには気軽に立ち寄ることができ、指導員や在室生との関わりの中かで気分転換を図り、元気を取り戻せる居場所として活用された。 2. 課題を抱えるこどもへの支援 (1) 様々な理由で不登校になったこどもも数名いたが、家庭と相談したり、学校とは違う、こどもと関われる居場所として、学校に行けなかった日も登室したり、行事などに参加したりすることができ、その中で、徐々に登校できるようになったり、学習室への登校ができるようになった。 (2) 学習のつまずきに対応できるような学習支援体制 学習につまずいた、あるいはそのような傾向があるこどもや、担任との関係が悪化して学習に意欲を無くしたこどもも、勉強に興味を持ち、自信を持つことができるよう、退職教員のボランティアによる学習指導を週 2 回実施し、長期休みは毎日の学習時間に学習支援を行ってもらった。

Ⅱ. 地域に根付いた学童保育から、共助の地域コミュニティ作りへと発展させるため、次の事業を行った。

1. 地域と連携したこどもの居場所づくり

(1) 年間で4回(6/11、9/24、1/19、2/18)こども食堂を実施し、合計で235食の食事を提供し、地域の親子との交流ができた。



(2) フードドライブの取り組み 年3回(7月、10月、2月)実施し地域の連携する団体にも広げ毎回多数集まった。

(3) こども文化センターの活動への参画

年6回実施された運営協議会に参加し、2回のお祭りには1回は行事と重なったので保護者が交通整理に参加し、2回目はこどもが主体で参加し保護者が支援する方法で、親子で参加した。お祭りなどを通して、地域の子育て活動に協力した。



(4) 地域との関わりの強化 地域の青少年指導員に年5回の運営委員会や行事への参加を頂き、活動についてもより具体的な助言を頂いて、地域との関わりを持つことができた。

(5) 地域のこどもたちの日常活動への受け入れ

日常的に公園での遊びに誘ったり、各種行事に招待したり、焼き芋をいっしょに食べるなどを通して、大勢で遊び楽しめるような居場所づくりを行った。



(6) 地域における子ども文化活動の発信

地域ウォークラリーなどで、地域の自然や地域に伝わる民話、歴史遺産に興味を持てるような活動を行った。また、こども劇場や伝承遊びを通して、地域のこどもたちと共に地域の自然に親しんだり、こどもの文化活動を生活の中に取り入れる活動を作った。



(7) 世代間交流の推進

野川老人いこいの家や近隣老人施設との交流として、手作りプレゼントにお手紙を添えて渡した。また地域の幼児親子を招待しての餅つきなど、世代間交流を推進する取り組みを行った。



(8) 地域人材の活躍・育成の場の提供

年間約 100 回の学習ボランティア、年間 8 回の各行事や年 2 回のこども文化センター祭り、区民祭の時に卒業生の中学生から成人までの大勢の参加・協力があり、地域との橋渡しになった。

参加者の年代	I 学童保育： 小学校 1～6 年 II 地域との交流： 小学生を中心に幼児～お年寄りまで	定員 （1 回あたり） 地域との交流： 特に定員は設けていない	I 学童保育： 小学生 46 人 II 地域との交流： 取り組みにより 60 人から 200 人
実施頻度	I 学童保育： 日・祭 日年末年始を除く 毎日(行事のある日は日・祭日も実施) II 地域交流事業： 平日及び日曜祭日	活動日数 （年間）	I 学童保育： 294 日 II 地域との交流： 17 日
スタッフ体制	<u>指導員体制</u> ・常勤指導員 3 名 ・非常勤 2 名(交代勤務) <u>保護者会、運営委員会</u> ・地域交流事業には保護者会、運営委員会が全面的に協力 <u>OB 会他</u> ・卒業した中学生～成人の OB とその保護者及び関係者が様々な場面でボランティア参加		
連携する団体・連携の手法	連携する団体・連携の手法 I 学童保育事業 ・野川地域の青少年指導員、地域教育会議委員 運営委員会のオブザーバーになってもらい助言を頂いた。 ・野川台自治会、野川地域消防団 保護者・運営委員が、自治会の役員・消防団に加入し、災害時に備えた。 ・野川地域の小学校 PTA 運動会などの学校行事で、保護者会として場内パトロールなどの協力をした。 ・宮前区内 4 自主学童保育の会 年 3 回情報交換・活動連携 ・川崎市内自主学童保育指導員会 毎月情報交換・合同行事 ・支援が必要なこどもに対しては、 各小学校、西部地域療育センター及び、教育センターに 学童保育での様子を伝え、保護者と相談して情報を共有した。 II 地域交流事業 ・野川地域の子育て団体及び青少年指導員など		

	地域のこどもの状況の情報交換をし、こども食堂の実施、フードドライブの実施などでの相談、協力要請を行った。 ・野川地域の小学校・中学校 PTA、地域教育会議 校外学習、PTA 活動への協力を行った。 ・老人いこいの家・老人福祉施設などと、交流会を行い、世代間交流を行った。 ・野川こども文化センター 運営協議会に関わり、野川地域の子育て団体と連携を取り、運営協議会行事には全員参加で積極的に関わった。 ・地域の子育て団体との交流 地域のこどもの遊ぶ環境について話し合ったり、子育ての相談機能作りも検討した。
取組実施により 見込まれた効果	I 学童保育事業 「こどもが安全・安心に過ごせる居場所づくり」及び「課題を抱えるこどもへの支援」を基本的な目的として、平成 15 年から継続して実施している。発足から現在に至るまで、「地域と連携したこどもの居場所づくり」を行い、地域に根差した子育ての拠点として延べ 600 名以上の小学生の保育を実施してきた。平成 28 年度からは、地域の関係者に運営委員会への参画を頂くなど地域との連携をより強化している。 II 地域交流事業 地域に積極的に関わる事で、自主学童保育運営に伴う、地域のこどもと大人のコミュニティの基盤作りを地域の中で活かしていきたいと考える。 I 学童保育事業、II 地域交流事業を今後も安定的に継続することで、次のような効果が見込まれる。 1 地域に愛着を持つ子どもの育成 2 公助によらない子育てのセーフティネットの作成 3 子育てに関する共助の場の確保 4 地域人材の育成と活躍の機会の提供